

平成 28 年度 第 4 回帯広市社会教育委員会議 議事要旨

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 15
- 2 会 場 森の交流館・十勝 多目的ホール
- 3 出席委員 我妻 公裕、西保 俊太郎、杉本 光瞬、阿部 好恵、平田 昌弘、矢野 充、松田 信幸、池田 健一、松本 健春、高倉 美恵子、大槻 みどり、田中 恵子、藤崎 博人、廣瀬 有紀、奥村 喜実、佐々木 祥世
(以上 16 名 敬称略)
- 4 事務局 帯広市教育委員会生涯学習部長 神田 亜紀志、生涯学習部企画調整監 森川 芳浩、図書館長 前原 匡宏、生涯学習課長 樂山 勝則、文化課長 増子 和則、百年記念館長 北沢 実、動物園長 柚原 和敏、生涯学習課係長 島田 猛、生涯学習課係員 岩崎 真実
(以上 9 名)

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 帯広市教育委員会生涯学習部長 挨拶
- (3) 森の交流館・十勝 施設見学
- (4) 帯広市社会教育委員長 挨拶
- (5) 議事
- (6) 閉会

6 議事要旨

(1) 2017 冬季アジア大会について

[事務局より説明。]

【質問・意見等】

なし。

(2) 社会教育委員会議の研究協議テーマについて

第 5 回会議テーマ「社会教育委員と教育行政の連携」について

【論点】

- | |
|----------------------------|
| 1 地域の実態をよく知る社会教育委員 |
| 2 いっそうの社会教育のモニタリング |
| 3 委員間での社会教育に係る方向性の活発な議論 |
| 4 事務局や教育委員会との情報共有、助言・意見の具申 |
| 5 その他 |

【意見等】

(上記論点について、一括して意見交換・協議を行った。意見等は以下のとおり。)

○委員

今回の会議テーマは、社会教育委員会議と教育行政の連携ということで、この研究協議を締めくくるテーマとなる。

委員各位の活動、地域や周辺での社会教育の動向などをもとに将来に向けた建設的なご意見をお願いしたい。

○委員

社会教育委員二期目になり、以前は他の自治体でも委員をしていたが、今回のようにこうした研究協議テーマを持って話し合うことがなく、委員の中には、団体の代表として選ばれたが、そもそも社会教育とは何か、どのようなことを話していいのかわからない、という方が多くいた。

今期については、本日で5回目の研究協議テーマ協議となるが、前回までの協議で委員は非常に社会教育に明るくなったと思う。

残念なこととしては、今期の委員は今年7月末で任期が終了することになり、委員が入れ替わった時に、新しい委員はこうした論議や意思疎通、考え方を必要とされ、社会教育に携わっていかなければならないことがあげられる。

以前、社会教育手帳を紹介してもらったが、このような情報が始めにあると、社会教育とは何か、どうやって関わっていけばいいのか、早い段階で分かるのではないかと。

教育というのは場所とか時間とか時期とか選ばずにずっとあるもの。学び合うということが大事だと思っているので、その学びを我々は社会教育という立場から支援していく姿勢をいつも持ち続けなければならないし、それに対する評価もしなければならないと思っているが、なかなか評価というところまで追いつかないのがこの社会教育の難しいところ。

今期については、自分自身すごく勉強になった。

○委員

今日の会場、森の交流館・十勝はとても素敵な施設。JICA 研修員、管内在住の外国人の方、畜大留学生も含めて、多くの外国人と日本人に利用されており、帯広で世界に一番近い場所が、隣の JICA 帯広センターと森の交流館・十勝だと思っている。

今日は、来年度予算についても議題に上がっているが、この森の交流館のように、普段はひっそりと利用されているような施設であっても、予算を減らすことなく、今後も施設の役割が発揮できるようにしてほしい。

社会教育については、私も勉強不十分だが、帯広市で取り組んでいる社会教育のいろいろな部分、資料に出ているようなものは、勢いがある時代にどんどん伸びていったものだと思う。小学校の校長としての実感では、今の時代は保護者になかなか余裕がなく、無理せずに実行できる範囲の社会教育でいいのではないかと思う。(必要に応じて) 削るときは削ることも大事であると感じている。

○委員

社会教育委員一期目で、委員として何をすればいいのかを自問自答し、今日を迎えている。

社会教育委員の仕事、役割をいろいろ調べてみたが、社会教育そのものがなかなか理解しにくい。児童会館や明治十勝オーバルだとか、今日の森の交流館・十勝などの施設を見学する中で、行政によって社会教育の場が昔から用意されているということを実感するとともに、委員になり、本当によく勉強させていただいた。

自分は学校教育に携っているが、注意してみると、様々な社会教育、生涯教育がある。学校では、総合的な学習の時間や、その他学校行事等で施設の見学だとか芸術鑑賞のほか、職場体験等、子ども達は頻繁に外に出て学習している。こうしたことが恐らく、子ども達の将来の社会教育につながっていくのではなからうかと思う。社会教育を豊かに、盛んに

するため、学校教育の中でも、施設見学や芸術鑑賞など様々な体験をさせる必要があるというように思う。

○委員

自分も一期目だったので手探りの状態で、分からないことが多くあったが、様々な施設を見学した中で、特に児童会館を見させていただいた時には、自分が関わっている人形劇サークルが、こうした施設で地域の子供達と一緒に触れ合っているということを改めて知ることができた。

自分が、地域の学生と住民が交流できる機会の提供や、きっかけづくりができると思っている。子供達と交流する体験を通して学生も学ぶことができ、年齢を重ねて、学生自身が子育てするようになったときに、また、そこに行ってみようかと思えるかどうか、ということも大事なのではと思っている。

モニタリングという言葉があるが、社会教育の中には、ここ数年間のものだけではなく、もっと長期的な評価、もっと長い目で見ていかなければならないものも含まれていると思う。

今回の冬季アジア大会のスケート選手達が泊まっているホテルで、サークルの学生と一緒に、選手達をもてなすためにボランティアとして参加した。選手が少なかったので、思うような交流とはならなかったが、こういうような形で活動をしていくことが、次につながっていくものと思っている。

今回の「Info-Net」に書かせていただいたが、50年間活動を続けているサークルがあるということ、この会議に参加されている方にも分かっていたような機会になればいいのではないかと考えており、文字化、データ化していくことも大事なことと考える。

まだ一期目なのでうまく整理できていないが、何かしらの活動を実践して行く中で、学生にとっても地域の方々にとっても、交流できるような機会になっていけば良いと考えており、自分自身がつなぎ役になれると良いと思っている。

○委員

地域の実態を良く知る社会教育委員とは、地域の人々、その市民の声を市政に届けやすくする、そういうシステムとなることだと思う。

それぞれの委員は、各所属団体を代表して委員となっているが、帯広市全体の意見を届けることができるわけでないので、市民が声を届けやすいシステムをつくる必要性があって、そのためのシステムづくりを我々が検討するものではなかろうか。

以前にもお伝えしていると思うが、例えば、SNS、皆がスマートフォンを持っている時代なので、そういうものを活用して市民が気軽に声を上げるようなことができるシステムができればいいと考えており、上がってくる声を我々がどう捉えて反映していったらいいか、ということはずっと考えてきている。

委員間で社会教育に係る方向性を活発に議論していくためには、固い会議の場では、なかなか委員の皆さんが自由に発言できないということもあるので、気楽な場で意見交換することが有効なのではないかと思う。

事務局や教育委員会との情報共有、助言・意見の具申に関しては、この一年参加させてもらって、社会教育委員の会議の位置付けが難しいと思っている。責任を持って活動するに際しては、一定の位置づけ、一定の発言影響力を持たせることが必要と考えている。

○委員

委員が地域の実態を知るといのが重要視されている中で、やはりこの場がそうした社会教育の情報を得る一番の場かなと思っている。この場で得たものを、自分の団体に伝えるのが委員としての一つの役割と思っている。

仕事柄接する人は若い世代で、子どもは実際に社会教育のいろんなことに参加できるわけではないので、保護者の方々が参加しやすい社会教育の場があると良い。また、イベントや教育の情報等を若い世代に提供し、様々なものに参加して、コミュニケーションが取れると違ってくるのではないかと、思う。

今、若者はコミュニケーション能力が不足しているといわれているが、できればこの委員間で、広い年代に社会教育に参加してもらうにはどうすべきか、考えていくのが良いと思っている。

○委員

委員になる前に、地域の町内会の活動や生涯学習、小学校の教育支援、世代間交流などいろいろと社会教育に関係のある場に参加してきて今に至っている。

委員になって思うことは、基本として、今までどおりの活動をやっていけば良いと感じている。ある程度、自分の活動が地域の役に立っているとは思いますが、さらに広報活動をしっかりできれば良いと思っている。

モニタリングに関しては、教育行政により関心を持って、勉強することが大事だと思う。自分も、今期は2、3回くらい図書館で社会教育の本を借り、理論的なことを勉強してみたが、もう少し理論的に社会教育を理解していかなければならないと反省をしている。

委員間で社会教育に係る方向性を活発に議論していくにはどうしたら良いか考えていた。以前、学校教育の関係で様々な活動をしている人達が、多様なテーマを自由に話し合う“こども応援！みらいカフェ”に参加したが、なかなか面白かった。お茶とお菓子を持ち寄りながら、ざっくばらんに話し合うという感じの中、テーマを気軽に話し合えるものに絞って、お互い自由にわいわい喋るってような交流の場だった。交流を深めていくと、お互いに意見が出てくる。

事務局や教育委員会との情報共有、助言・意見の具申については、まずは自分達が関心を持って資料を見ることが大切だと思っている。

今期は、とても勉強させられたと思っている。

○委員

例えば、市の広報や生涯学習情報誌の「まなびや」では、非常に多くの講座が開かれているのが分かり、市民の要望に十分応えられるようになってきていると思う。何か社会教育委員として、もう少し組織的にこうした事業に関わることができないものかと思う。

例えば、いろんな事業に社会教育委員が1人ないし2人参加し、市民目線に立って状況を把握して、見直しに向けて意見をしていくというようなことが必要なのではないか、と思う。

委員間で社会教育に係る方向性を活発に議論していくことや、事務局や教育委員会との情報共有、助言・意見の具申は、とても大事なことだが、自分も一期目の中、今のところはどうしたらいいとの考えを持ち合わせていない。帯広市の社会教育を担っていくという意味では、委員は非常に大事な仕事を受け持っているわけで、市の教育行政と意見交換するということは、とても大事なことではないかと思う。なにかしらの足がかりを作っていただくことで、きっかけができればと思っている。

○委員

地域の要望に応えたり、地域住民の絆と支え合う心を支えているのが、自分らの生涯学習の活動になっていると思っている。先ほど話題に上がった、人形劇サークルの活動も、子ども達のところに来て一緒に学習してきたことで、子ども達に本当に喜んでもらえる活動として評価されていると思った。

先日、とある市民検討委員会に出たが、今の子ども達は貧困に苦しんでいるという話をきいた。食事をしてない子とか、高校生でもほぼ毎日アルバイトをして、自分のためではなく、家庭の生活費を稼いでいるというような話をきいた。我々委員としては、そのような子どもの教育の実態などに対してもしっかりと目を向けていかななくてはいけないと思っている。

○委員

今日は、せっかく森の交流館・十勝という場所でやっているのので、帯広市の国際化の実態はどうかということを考えてみた。

帯広市は、朝陽市やスワード市など海外の各都市と昔から交流をしているが、帯広の中に住んでいて自分の周りに、あまり「外国」を意識することがなかった。最近では、ずい

ぶん海外の方が帯広に住むようになって、小・中学校にも、海外の児童生徒が教室にいて、昔と教室の中の絵図が違ってくるようになってきたと聞いたことがある。

また、観光の面でも、すごく注目を浴びてきているようで、海外あるいは道外の方が帯広に足を運び、東京の方の修学旅行生が農村体験をして滞在するなど、ずいぶん注目を浴びているようだ。

こうした地域の実態が昔と変わってきている中、帯広の社会教育も、中にずっといる人に対する教育という視点から、帯広の国際化、グローバル化を踏まえて、外の人に向けての教育へと、目先を変えて考えていくような時期に来ているのではないかと感じる。

今、冬季アジア大会のため、明治十勝オーバルには市内外・道内外・国内外から多くの方が訪れている。小学校も学習指導要領が変わり、小学生が英語を勉強するという時期がくる。市内の小学生も（冬季アジア大会に）応援に行っているというところも聞いているが、明治十勝オーバルに来場している海外の人に対し、小学生が簡単な英語で挨拶ができることを想定しているのかもしれない。自分が子どもの頃の帯広とは国際イメージも変わってきている。

こうしたことから、海外や道外から来た人が帯広いいよね、住んでみたいよね、というような印象を持ち、帯広市が取り組んでいることや、教育についてアピールできるような時期にもう来ていると思う。こういった社会教育という部分をもうちょっと視野を広げて、帯広を売り出すというようなモーションを起こせたらと思っている。

○委員

自分は子育てサークルの支援を担当しており、どちらかというと家庭教育に重点を置くことが多く、今まで社会教育委員会の中で見学した施設もよく利用している。

ただ、帯広市に転入して来る方が多く、そういう方々がどこに助けを求めるといって、保育所だったり、子育て支援センターであったり、そういった所でないとまちの情報が入ってこない。

社会教育委員になって、生涯学習の情報誌「まなびや」が送られてくるようになり、その中に、子育て支援に関する行事が、とてもたくさん行われていることを初めて知った。こうした情報を伝えていくだけでも、子育て世代には良い情報になるのではないかと、今回改めて考えさせられた。

○委員

一般公募で、平成25年の8月からこの社会教育委員を勤めさせてもらっている。

社会教育委員に応募した際の論文の中で、社会教育委員として、次のことをやっていきたいと書いた。

1つは、地域で子ども・若者を育成していく、それから後継者が後継者を育成するといった仕組みづくり。

2つめとして、まずは自分の住んでいる地域の様々な課題や問題が何かを考えた時に、まちづくりの一番の根幹にある町内会をなんとかしなきゃならないと考えた。今から40年前の学校教育と地域との連携は非常に密であり、そして活発だった。学級経営にしても、やはり地域住民や保護者が非常に協力してくれる。それが原点としてあり、地域そのもの、町内会そのものが活性化している真只中であつたと、思っている。

今は町内会が衰退しているように感じており、これはなんとかしなくてはならない。やはり地域の活動を牽引するリーダーの育成等が、今非常に求められていると考える。

このような決意をもって現在にまで至っている。

また、自分の専門分野や、趣味、そういったものを活かしていければ良いと思う。そういうことを考えて社会教育委員を務めている。

社会教育の範囲は広いので、地域づくりやスポーツ、文化など三つくらいに分けて皆で話し合っ、課題を見つけて、解決に導いていくようなことが大事なのかなと思っている。

○委員

一般公募で二期目となる。自分は、特に肩書きもなく一般人であり、一母親でもあるが、委員として、一般人の自分に何が出来るのだろうかと考えた。そこで、身近な友人だったり、息子の学校の同級生だったり、同級生の保護者だったり、地域のイベントや住民との交

流の機会など、「楽しいこと」を発信することが自分にできることだと思う。自分なりに及ぼせる影響力をもっと磨かなければならないと感じている。

○委員

自分は、市内で様々な施設を利用している。例えば、この森の交流館・十勝には、散歩で来て、パンフレットを見て、いろいろな行事に参加し、そのうちに日本食講座の企画側にまわって7～8年くらい関わった。調理室を使った行事は、春夏秋冬を通じて12年間やってきた。

また、ここの受付にあるいろいろなパンフレットが縁で、今、小学校の児童向けに、放課後広場という活動に取り組んでおり、150人くらいの子どもと関わっている。帯広畜産大の留学生に来てもらい、留学生の母国の遊びを子ども達に教えてもらうなどの企画をしている。

とかちプラザに行けば、またいろいろなパンフレットがあり、プラザ・エンジョイスクールや、市民大学講座の開催案内を見て参加したりしている。エンジョイスクールに関しては、今は運営する立場になっている。とかちプラザでは、いろいろな講座があり、面白い講座を見つけて参加している。

振り返れば、自分なりにいろいろなことをやって、つなぎ役をしてきたと思っている。

委員にも知らないことが確かに沢山ある。知っている人は知らない人へのつなぎをすることができ、こうしたことも社会教育の一環だと思う。

平成23年に社会教育委員になって以降、社会教育委員とは何かということ、いつも当時の委員長に質問してきた。

社会教育に関する会議の資料などには難しい言葉が多くあるが、そんな難しい言葉を理解して突き詰めなくても、先ほど言われていたように、実際に地域で活動していることが社会教育委員であると感じている。社会教育委員を大上段に捉えるのではなく、ここに来ていること自体が、社会教育委員の役目を果たしているのではなかろうかと思う。会議を通して、様々なご意見をお持ちの委員一人ひとりがすごいと思っており、もっともっとお互いを知ることが大切だと思う。先ほど言っていたように、堅苦しい場ではなく、お菓子を食べながらでも他の委員の話聞き、それを膨らませていくことで、何か見えてくるものもあるのではないかと考える。

○委員長

町内会についていろいろと言われているが、活発な町内会もある。活発な町内会はそれだけで地域資源だと思っている。どうして活発に活動ができるのかを伝えることが大事で、ぜひ地域に波及させていくべきだと思う。

国際化の話があったが、そうした視点を持った社会教育というのも大事だと考える。

モニタリングについては、行政は取り組みに対して、常に結果を求める。しかし、成果だけでなく、必ず途中の経過があるはずなので、こうした情報をしっかりと伝えていくことも大事なことだと思う。

委員間の交流についての意見があったが、以前は自主活動として何回か集まって議論し、身になった経験がある。必要であれば、取り組んでいけばいいのではないかと。

教育委員会との情報共有に関しては、ずっと社会教育委員と教育委員との間で意見交換をしたいと言ってきており、ぜひ実現してほしい。

会議の進め方、やり方については、以前は行政からの説明や提議に応じて追認するような形だったが、今回は、この会議自らが研究協議テーマを設けて意見交換や議論をするなど、大分違っている。今後はワーキンググループや少人数グループで議論をするなど、どのようにしたら、より話しやすい形にすることができるのかが課題だと思っている。

相互教育の話が出ていたが、社会教育委員間でも、教え合い、学び合うようなスタイルが在り方として必要だと考える。

[事務局より、今後の報告書作成について説明]

【質問・意見等】

なし。

(3) その他について

【質問・意見等】

なし。

(4) 平成 29 年度生涯学習部予算について

[事務局より説明。]

【質問・意見等】

なし。

7 閉会